

使用物品

演習 練習

<p>ワゴン、足浴用ベースン、石鹸、ウォッシュクロス、バスタオル、防水シート、45～48度の温湯、バケツ、水温調節用水用、ピッチャー、ビーカー(湯汲み用)、タオルケット、排液用バケツ、水温計、枕、爪切り、(保湿クリームなど)</p>	<p>・バスタオルと防水シートは使用し易いように重ねておく。 ・ベースンに足を入れたときの湯の位置の変動を予測して湯量を決定する。</p>		
<p>患者に足浴をすることの了解を得る。 足浴方法を説明し、必要に応じて排泄を済ませる 患者のADLや関節可動域を把握する。 環境を整える。 (室温・すきま風・カーテン・適宜スクリーン) 作業環境を整える</p>	<p>・足浴方法、所要時間など具体的に説明する。 ・患者に適した体位をアセスメントする。</p>		
<p>患者の膝を立て、寝衣の裾を膝上まで上げる。 タオルケットで大腿部、膝をくるむ。 膝の下に枕を挿入する 足の爪や皮膚の状態を観察する。 防水シートとバスタオルを重ねて一度に足の下に敷く。 看護師の前腕で温度を確認し、足の傍に湯を入れたベースンを置く。 一方の腕で患者の下腿を下から支え、他方の手でベースンを足の下へ移動させる。 患者の下腿を支えたまま、他方の手で患者の足に湯をかけ、湯の温度を確認する。 必要に応じて温度を調整する。 患者の両足をベースンに入れ、2～3分浸す。 ウォッシュクロスに石鹸をつける。 外果・足背・内果・足指・指間・足底・踵を洗い残しのないよう、十分に洗浄する。 湯の中で石鹸分を洗い落とす。 患者の両足を湯から出す。 ベースンの下に敷いてあるバスタオルの上に置く。 ベースンの湯を排水用バケツに捨てる。 ベースンの内側をきれいにすすぐ。 ベースンをバスタオルの上に置く。 ベースン内に両足をを入れて、湯を入れる。 ベースン内の湯で両足をすすぐ。</p>	<p>・タオルケット:保温・不必要な露出の防止、寝衣の汚染防止、大腿をくるむことで安定性が増し、下肢の姿勢保持に役立つ。 ・足浴中はベースン内の湯で寝具・寝衣を汚染しないよう注意する。 ・体位が安定し、患者もより安楽となる。 ・爪の色、長さ、形、皮膚の色、発赤、創傷、浮腫の有無の観察することは、足浴の方法・実施間隔の検討、日々のケアの評価、疾患の評価などの情報となる。(実施前・実施中評価) ・湯の温度や浸す時間は患者の希望を取り入れ、調整する。 ・足を湯に浸すことで保温効果が高まる。温熱刺激で立毛筋が弛緩し、毛穴が開き、汗腺・皮脂腺が拡張する。皮膚が浸潤し、汚れが落としやすくなる。 ・指の間や踵は汚れが落としにくいので意識して洗う。 ・石鹸によって変化したpHを正常化するには2回以上すすぐ必要がある。</p>		

実施	<p>一方の腕で患者の下腿を下から支え、他方の手でピッチャーの湯を患者の足にかける。</p> <p>他方の手でベースンを手前に移動させる。</p> <p>患者の足をバスタオルの上に置く。</p> <p>ベースンはお湯を排水用バケツ内に捨て、邪魔にならないスペースに置く</p> <p>バスタオルで押さえるように水分を拭き取る。</p> <p>必要時：爪を切る・保湿クリームを塗布する。</p> <p>評価を行う。</p> <p>① 患者の主観的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚染がなくなったか(臥位では難しいこともある) ・爽快感が得られたか <p>② 客観的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚染が除去されたか ・循環が良好になったか ・浮腫の状態はどうか等 	<p>片足ごとでも良い</p> <p>ぬれているうちにこすると、やわらかくなった角化した皮膚がさらに鱗片として落屑となる</p>		
片付け	<p>枕をはずす</p> <p>防水シートとバスタオルを取り除く。</p> <p>裾を直す。</p> <p>寝衣と寝具を整える。</p> <p>カーテン・スクリーンを開ける。</p> <p>使用物品の洗浄・洗濯物を所定の場所に片付ける</p>			

確認者サイン